

我が国 SNA における生命保険の実物取引と金融取引について

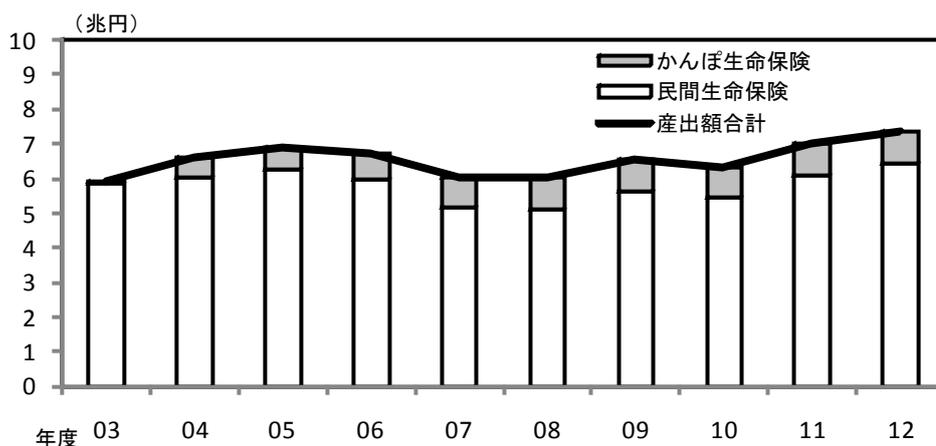
日本銀行調査統計局 藤原 裕行

生命保険の取引は、我が国国民経済計算（JSNA）において、金融・保険業および金融機関や家計等における取引の一部として記録される。生命保険は、通常の財・サービスの取引と異なり、生命保険会社のマージンを産出（家計の消費支出）と捉え、生命保険の財産運用益を家計に帰属させている。具体的には、実物面では、生命保険サービスの産出が金融・保険業の生産活動に、同サービスの消費支出が家計の所得支出勘定に、それぞれ含まれる。さらに、所得支出勘定では、生命保険の資産運用収入を金融機関からの財産所得（支払）として家計に帰属させている。また、以上の実物取引には金融取引が伴い、金融機関や家計の金融勘定に反映されている。

こうした生命保険取引の推計には、生命保険会社の財務諸表の集計データが利用される。実物取引では、「推計手法解説書（年次推計編）」（内閣府経済社会総合研究所（2012））において、生命保険の産出額および保険契約者に帰属する財産所得の算式と利用する財務諸表の勘定科目が示されている。実際に生命保険会社の財務諸表の集計データを用いて、生命保険の産出額および生命保険の保険契約者に帰属する財産所得を試算することができる（産出額は下図参照）。また、金融取引の基礎統計である資金循環統計では、実物取引との整合性を高める推計方法の見直し（取引額からキャピタルゲイン・ロスの影響を一部除去）が実施された。

ただし、生命保険の財務諸表の勘定科目ごとの集計データが必ずしも SNA の概念に沿っているわけではないことなどによる推計誤差がみられ、実物取引と金融取引の純貸出／純借入（資金過不足）の不突合は小さくない。生命保険各社の詳細な内訳データを利用すればより精緻に推計することが可能であるが、この作業コストは大きい。推計実務上は、推計方法精緻化による計数全体への影響度と統計作成のコストの双方の大きさを睨みながらの対応が必要となるであろう。

（図表）生命保険の産出額（試算値）



（参考文献）

藤原裕行（2014）「我が国SNAにおける生命保険の実物取引と金融取引について」内閣府経済社会総合研究所『季刊国民経済計算』No. 155